



秋田県 秋田市消防本部
消防長 海野 達雄

自然豊かな秋田市



秋田竿灯まつり

秋田市は、秋田県のほぼ中央に位置し、日本海のなだらかな海岸線に面しています。太平山の緑濃い山並みに抱かれ、雄物川、旭川、岩見川が静かに流れ

る「自然豊かな」当市では、基本理念「ともに生きるとともに生きる 人・まち・くらし」のもと、年齢や性別を問わず、自分らしくいきいきと輝いている「人」、にぎわいにあふれ、多彩な魅力に満ちている「まち」、四季の移り変わりのように彩り豊かで、心うるおう「くらし」の実現をめざしています。

慶長9(1604)年、常陸太田(茨城県)の城主佐竹義宣が、久保田城(現在の千秋公園)を築城以降、約270年にわたって秋田は佐竹氏の城下町として栄えました。市内中心部のまちの構造は、城下町時代の町割りがその原型となっています。また、8月上旬の「秋田竿灯まつり」は、東北3大祭りのひとつで、4日間で約120万人を超える観光客を迎えています。



久保田城

当市の消防体制は、1本部(5課)・5消防署・2分署・7出張所、401人の職員と、1団32分団、1,926人(平成24年4月1日現在)の団員が一丸となって、管内面積905.67km²、約32万人の市民へ安全安心につながる消防行政サービスを提供しております。

秋田市消防本部の取組と課題

消防団活性化事業として、11月16・17日に、第18回全国女性消防団員活性化秋田大会が当市で開催され、「美の国へようこそ!女性消防団員・秋田で元気に」をテーマに全国各地から約2,000人の女性消防団員が集い、消

防団活動や情報交換など全国広域的な交流を行い、今大会の参加申込者数は予想を超える勢いであり、消防団の一層の活性化が期待されます。

また、当市の住宅用火災警報器の設置率は平成23年6月1日時点で71.2%、平成24年6月1日時点で78.6%と推計されています。今後も住宅火災による被害軽減を図るため、火災予防運動や各種訓練指導などを通じて継続的に普及啓発活動を実施し、設置率100%をめざします。

応急手当講習会では、市民の高い講習会の受講率は、実際の救急現場における応急手当の実施率や救命率向上の成果としても現れており、平成23年中では、318人の心肺機能停止傷病者に対し、57.55%にあたる183人に心肺蘇生法等の救命手当が実施され、22人が1ヵ月以上生存しています。当市では、平成27年度末までに10万人の受講者数の達成をめざしています。



訓練風景

地震、津波対策においては、「津波防災の日」の11月5日に隣接消防本部と津波警報サイレンの一斉吹鳴訓練を行い、津波警報サイレン全7基の可聴範囲調査と訓練結果の検証を実施することとしています。

緊急消防援助隊の派遣状況は、北海道十勝沖地震、岩手・宮城内陸地震等で活動したほか、東日本大震災では、47隊158人が岩手県宮古市で、15隊42人が宮城県本吉郡南三陸町で活動しました。今後も、大規模災害や特殊災害活動対策などに向け、秋田県の代表消防機関として広域応援体制の整備を図ってまいります。

現在、当市北部にある土崎消防署を改築しており、完成後は石油コンビナート災害や水難救助等に対応する車両と資機材の集中管理、各種訓練施設および快適な勤務環境の整った庁舎とし、北部地区の防災拠点として整備していくこととしております。

今後も中核市として消防組織の強化に向けた、消防活動力向上と安全意識の徹底を図り、市民から信頼される消防組織づくりを進めてまいります。